

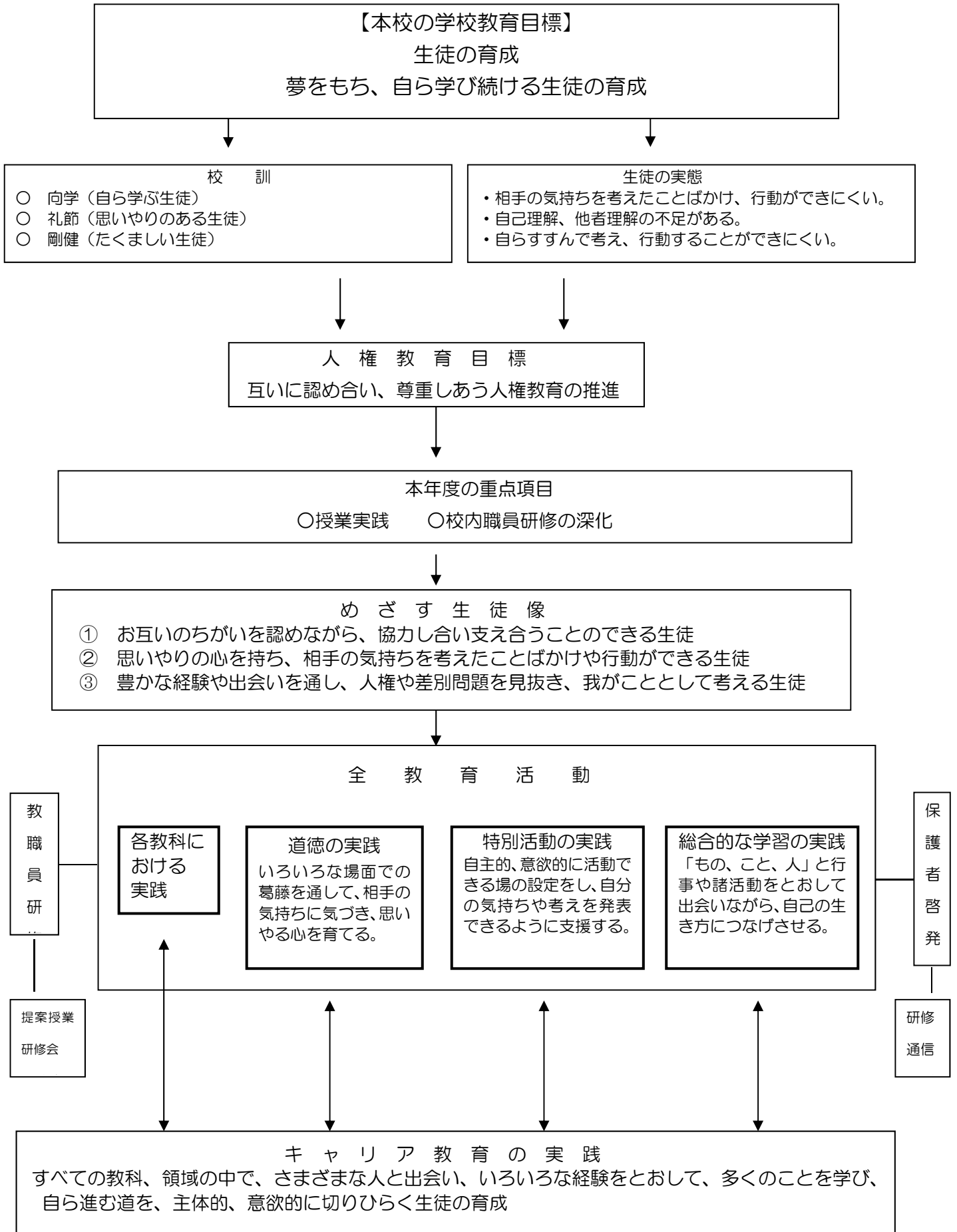
令和3年度

「人権の花運動」実践報告



別府市立中部中学校

1. 人権教育全体構想



2. 「人権の花」運動の目的

生徒たちが協力して花を育てることにより、生命の尊さを実感し、その中で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することで、日常生活の中にその学びを生かしていこうとする態度を養うなど、情操豊かな生徒を育成する。

3. 「人権の花」運動で目指す生徒の姿

- 人を大切にしようとする行動ができる生徒
- 相手の立場に立って言葉をかけられる生徒

4. 活動のスローガン

開花 ～種はみんなでわり算で、優しい心はかけ算で～

5. 年間計画

(1) 主な活動内容

- 花の種、苗植え
- 花の水やり、成長記録、種の収穫
- 地域や施設等へ贈呈

(2) 活動する生徒

生徒会執行部を中心とした全校生徒（ボランティア）

(3) 年間活動計画

月	活動内容
6	• 概要説明後、全校でスローガン募集、決定
7	• 指定書交付式 • 花の種、苗植えつけ • 水やり • 花の栽培成長記録 • 人権授業
8 9	• 人権作文、ポスターの取組
10	• 夏の花の種の収穫 • 秋蒔きの花の種、苗植えつけ
11	• 水やり • 花の栽培成長記録
12	• 「人権の花」終了式（感謝状贈呈式） • 人権集会（風船イベントなど）

6. 活動の様子

(1) 指定書交付式

指定書の交付式は、7月2日（金）の6限に中部中学校体育館にて実施しました。コロナ感染拡大防止のため、2,3年生のみ体育館に集合し、1年生は教室からリモートで参加しました。マスコットの「じんけんまもるくん」も登場し、活動に対する激励のお言葉をいただきました。

生徒会長の国武和虹さんが、「このような活動の機会をいただき、光栄です。花を育てることを通して、今一度、自分たちの人権意識を再確認できたらいいと思います。大切に育てていきます。」と感謝の気持ちと決意を述べました。



スローガン発表



生徒会長による意見発表



激励のお言葉と記念品をいただきました。新聞で「人権の花運動」指定書交付式の様子が掲載されました。花の苗植えは、この日の放課後に実施されました。



令和3年7月7日
大分合同新聞

(2) 第1回花の苗植え

指定書交付式が終了し、放課後技術室でマリーゴールド、ポチュラカ、ひまわりの苗をプランターに植えました。全校生徒にボランティアを募ったところ、1、2、3年の全学年から合計37名もの生徒が集まりました。



花の苗植えは久しぶりだと話す生徒たちは少し緊張した様子でしたが、プランターに石を詰め、土と肥料を混ぜ入れ、優しく丁寧に苗を土に植えていました。黙々と作業する生徒たちの表情は真剣そのもの。しかし、その中に、可愛らしい花を笑顔で見つめる柔らかな眼差しがありました。



苗植えが終わり、水やりがスタートしました。朝早めに登校し、たっぷり水をあげる生徒たち。「大きくきれいに育て。」と念を込めて育てていました。正面玄関前のプランターの花には、生徒会執行部のメンバーが、各学年昇降口前には各学年のボランティアが水やりを行いました。

夏は朝、夕の2回水やりを行いました。特にひまわりの苗は初めのうちが肝心で、多めに水をあげるよう、アドバイスをもらいました。

最初は細く小さかったひまわりの苗が、少しずつ太く大きくなっていきました。



(3) 第2回花の苗植え

11月2日(火)の放課後、冬の花、ノースポール、ビオラ、パンジーの苗を植えました。30名の生徒ボランティアが集い、丁寧に作業を行いました。



(4)「人権の花運動」終了式と人権学習

12月23日(木)の5限に「人権の花運動」の終了式を体育館で行いました。コロナ感染拡大防止のため、3年生のみ体育館で式にのぞみ、1、2年生は教室からリモートで参加しました。感謝状をいただき、生徒会長の国武和虹さんが、感想を述べました。

国武さんは、「花を育てることは思った以上に難しく、夏の暑さに枯れてしまってとても残念で悲しい思いをしました。順調に育っているときは素直に嬉しかったです。人の心も花と同じように繊細だと思うので、優しさを持って、周りの人と接していくことが大事だと改めて感じることができました。」と活動を通して感じたことを率直に伝えてくれました。

また、会の後に、3年生を対象にした人権学習が行われました。テーマは「統一応募用紙」についてでした。真剣に学ぶ3年生の姿がありました。



3年生全員とマスコットキャラクターのころちゃんで集合写真を撮りました。

(5) 生徒の感想

花植えの時、学年の友だちと協力しながら作業を行うことで、仲も深まり卒業前に思い出ができて良かったです。かれてしまった花もあったけれど、毎朝、がんばって植えたキレイな花を見て、嬉しかったです。

友達と協力して、花を植えることは、とても楽しいと感じました。花を植える機会は、少ないので苦戦しましたが、終わった時は、達成感がありました。学校の花で元気になる人がいれば良いなと思います。

綺麗な花を見た人も幸せな気持ちになったと思われ、私達のように
水やりをしていた人達も、毎日の花の成長を実感し幸せな気持ちになれた。
育てる側も見る側も幸せな気分になることができました。

花を仲間と協力し、プランターに植えて、水やりをして育て
ることで、花を育てることの難しさや、楽しさを学びました。

人の心は花と同じでデリケートなので大切にしていきたいと思います。

7. 考察

<成果>

コロナ禍で様々な行事が延期になるなど、生徒たちは不安や焦りなどを感じていましたが、花を育てることは、心を落ち着かせ、穏やかな気持ちで過ごすことに繋がったと感じています。また、多くの生徒が「花を大事に育てたい。」という思いから、積極的に苗植えや水やりを行い、思いを行動に移す姿を見ることができました。

<課題>

この活動を通して得た人権意識をこれからの学校生活や日常生活の中で、さらに高め、仲間や周りで支えてくださる方々への感謝の気持ちを持ち、行動できるように指導を継続していきたいと思えます。

コロナ感染拡大防止の観点から、施設等との交流を持つことが難しかったので、別の地域貢献の方法を模索できるとよかったと思えます。

おわりに

コロナ禍で、行事の延期が相次ぎ、当初の計画から、日程や取組内容が大幅に変更になったにもかかわらず、中部中学校の取組に理解を示してくださった別府市共生社会実現・部落差別解消推進課の皆様に感謝申し上げます。花の栽培ボランティア活動は来年度もぜひ実施したいと考えています。